

# 議員団 ニュース

日本共産党平塚市議会議員団

電話 0463-23-1111 (内線 2375)

平塚市浅間町9-1 平塚市議会控室

No.1146 2011年11月20日発行

日本共産党平塚市議会議員団

団長 渡辺 敏 光

電話・fax 31-6431

w-toshi@agate.plala.or.jp

松本 敏 子

電話・fax 59-4607

mail@matsumoto-toshiko.jp

高山 和 義

電話・fax 31-4638

k.takayama@mb.scn-net.ne.jp

日本共産党議員団の法律相談

今回は12月17日(土)です。

午後1時から (要予約)

## 2012(H24)年度予算要望 落合市長に手渡す



11月14日、日本共産党平塚市議会議員団は来年度に向けた予算要望書を市長に手渡しました。

(左から、高山議員、落合市長、渡辺議員、松本議員)

今回要望した項目は、全体で98項目となります。

皆さんから寄せられた要望は、公共料金値上げの凍結をはじめ、福祉(子育て、高齢者、障がい児者、保健、医療、)の充実、教育・文化・スポーツ、地元中小企業・農業・漁業・商店街支援策、安心・安全、環境配慮のまちづくりの推進など多岐にわたっています。

これら要望の実現に向け、これからも力を尽くしてまいります。

## 平塚市、11月からマイクロスポット対策始まる

共産党市議会議員団は、9月議会で放射性セシウムは雨などで流れた後、水が溜まりやすいところに高濃度になって蓄積される「マイクロスポット」を形成することから、早急に市内各地を測定し、子どもたちの安全を守るよう要望してきました。

市の環境部環境保全課では、市内全域をメッシュに区切り、29施設(幼稚園3、小学校8、中学校4、保育園4、子ども家2、公園8)を抽出して、放射線量の測定を11月7日から順次実施しています。

測定をしている中で、やはり基準値(0.23μSv/h)を超える個所が出てきます。雨が溜まりやすい場所、木の茂みの下、雨どいの下、芝生や滑り台の下、側溝などをしっかり測って、基準値を超えたら完全に除去する。

放射性セシウムは半減するにも30年かかると言われ、長期にわたる作業になりますが、市民の安全を確保するには、こうした冷静かつ適正な処置を繰り返し、危険を取り除いていくしかありません。

共産党市議団は、これに関連したみなさんからの要望は随時、環境保全課に届け要望しています。

### 四之宮の下水処理場を視察

5月に汚泥焼却灰から最大2873ベクレルの放射性セシウムが検出されてから6ヶ月が経つことから、その後の状況を視察してきました。(11月8日)

その後も基準値を上回っており、セメント材料として搬出できずに敷地内に大きなドーム型の倉庫を設置し、そこに約600kg入った袋1000個が保管されたままとなっています。

どこの自治体も、処理の方向性を見いだせず頭を痛めています。



11月8日、「横内こどもの家」での測定に高山・松本議員が同行し、測定状況を見ました。

### 皆さんからいただいた要望

★今回の測定箇所の中には民間の施設もあり、測定の結果基準値を超えた場合、市の施設同様に市が責任を持って除去すること。

★測定位置は地上5cm、50cm、1mとなっているが、砂場は、子どもたちが手で掘って遊ぶ場所。砂場は、しっかり砂を掘って測定すること。

★今回の測定が一巡したら、新たな測定計画をたて、まず全市の公園を測定してほしい。



四之宮にある「相模川流域右岸処理場」に設置されたドーム型の大型倉庫

## 「議員研修会」で松本市市長の講演を聞く 「原子力災害における放射線被曝の長期的課題」

11月10日、湘南地方市議会議長会（藤沢市、鎌倉市、茅ヶ崎市、平塚市、小田原市、南足柄市の6市で構成）の「議員研修会」が藤沢市湘南台文化センターで開催され、議員団3人も出席してきました。

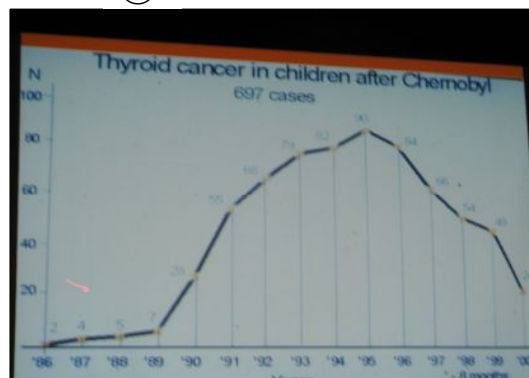
菅谷（すげのや）昭氏は、松本市の市長に就任され2期目。市長はかつて外科医として、1986年4月26日に起きたチェルノブイリ原発事故の医療支援活動を行ってきた経歴の持ち主です。



菅谷氏は1991年からチェルノブイリに7回もの医療支援に行った後、1996年からは5年半という長期間、ベラルーシ共和国の国立甲状腺がんセンターで小児甲状腺がんの外科治療や指導に従事されました。

今回、東京電力福島第一原発による事故がどういった危険性をはらんでいるか、政府の対応の遅さ、甘さ、将来起こり得る問題について資料を紹介しながら語られました。

①の写真は、1986年（原発事故）からのチェルノブイリにおける小児甲状腺がん発生の推移です。10年後がピークとなっています。



②の写真は、事故が起きてから10年たったチェルノブイリの周辺測定結果（汚染地図）です。30Km圏内ではまだ超高濃度の1480 KBq（キロボクレル）以上、400Km離れた地点にも高濃度のホットスポットが測定されています。



松本市長は報告の中で、チェルノブイリの隣国であるポーランドでは原発事故のニュースが出る前に、大気中に超高濃度の放射性物質があることを確認し、国民に非常事態体制を敷き外出を禁止し、2日後には子どもたちにヨードカリを投薬させたと語られました。その素早い対応と、日本政府の自国の事故でありながら、対応の甘さ、あいまいな言動を指摘し、今後起こり得る健康被害への早い対応が必要であることを示唆するものでした。

## 市民病院のうれしい“出産祝い膳”



平塚市民病院では出産すると、順調な人で4泊5日で退院の日を迎えます。そのわずか日の中で、夕食に「ご出産おめでとう」の心をこめた祝い膳が出るというので、一度見てみたいとお願いをして、願いがかないませんでした。

出産後、毎週火・木・土のどちらかで予約していただきます。これまでは1回のオーダーは5食分まででしたが、最近では出産入院の方が増え10食まで受けていると言います。

少子化が進む中、出産が出来る産婦人科が少なくなってきて、住んでいるまちで安心して赤ちゃんが産めるということが、本当に重要となってきています。

市民病院の食事は、5人の栄養士と非常勤の栄養職員、委託された会社の調理員で416人の患者さんの食事（経管栄養食などを除くと200人強）と赤ちゃんのミルクも担当しているといいます。

こんな手の込んだ素敵な食事ですが、「作る側も楽しんでいる」と聞いて、温かいものを感じました。

### ＜献立＞

お赤飯、お吸い物、牛ステーキ（ズッキーニなどの野菜添え）、エビ・野菜のてんぷら（5品）、お煮しめ、春菊の浸し和え、デザート（フルーツと可愛いロールケーキ）。一人ひとりにメッセージが…。



リンゴのハートやきれいな飾り切り、オレンジやキウイにも手が込んでいて、思わず見とれてしまいました。

**講演 「3・11後の福島は、今」** 清水修二氏（福島大学副学長）  
**シンポジウム**（茂木静夫氏（東大名誉教授、元地震予知連絡会会長）、呉東正彦氏（弁護士）、吉井英勝氏（衆議院議員））

**「大地震、原子力空母、大災害一神奈川、首都圏は」**  
**講演**：日時：12月10日午後1:30より  
**場所**：平塚市民センター大ホール

皆さんこぞって  
ご参加ください。